

第8回 群馬県地域リハビリテーション協議会 報告

「館林地区広域に慶友整形外科病院」

今回の協議会は、7月下旬に書面での協議となりました。前回（平成18年3月）の協議会において、太田・館林圏域は二つに分けて2か所の広域支援センターが必要とされました。その後、協議会委員及び事務局により調整を図った結果、医療法人慶友会 慶友整形外科病院から指定申請書の提出がありました。慶友整形外科病院は要件を満たすことから、館林地域リハビリテーション広域支援センターに指定することが認められました。

今回の指定により、県内全圏域で広域支援センターが指定され、この協議会の役割は一段落しました。今後は、介護予防推進の取り組みに地域リハの体制を生かしていくことが重要になります。そこで、この協議会を発展的に見直し、介護予防推進の協議組織として再編することが検討されています。

協議会委員長 山口 晴保

介護予防サポーター養成準備研修 報告

平成18年6月13日 群馬会館ホールにおいて、県高齢政策課介護保険室、県地域リハビリテーション支援センターの共催により介護予防サポーター養成準備研修が行われました。

介護予防サポーター研修とは、地域で自主的に介護予防に取り組もうとする方や、市町村等の介護予防事業にボランティアとして活動したい方などを対象に、介護予防に関する知識や技術を身につけていただくとするものです。本年4月にスタートした新しい介護保険制度において、介護予防事業は、市町村が地域支援事業として実施することになっています。この介護予防一般高齢者施策には「地域介護予防活動支援事業」があり、ボランティアや地域活動組織の育成・支援を行うことになっています。しかし、県内の介護予防に関する人材やノウハウは少ないため、県と県支援センターがカリキュラムを開発し、研修・普及を行います。昨年度、県支援センターが、群馬大学、栄養士会、歯科衛生士会、健康運動指導士会の協力で、カリキュラムの開発を目的に、パイロット事業を実施しました。前橋市の協力を得て、2月から3月にかけて、前橋市芳賀公民館で、介護予防サポーター研修会の初級コース及び中級コースを開催し、この反省を踏まえて、カリキュラムを作りました。

今年度は、地域リハビリテーション広域支援センター（県内12センター）が、市町村や講師となる方の協力を得て介護予防サポーター研修を実施します。サポーターは、市町村での活躍が期待されるため、研修生の募集や研修後の活用等について市町村が主体的に参加いただく必要があります。また、研修の講師になれる人材も十分でないため、専門職能団体の会員だけでなく、市町村や保健福祉事務所の専門職にも、講師としての参加もお願いしなければなりません。そこで、県内全広域支援センターと全市町村や保健福祉事務所の代表に集まって頂き、今回の伝達研修が実施されました。

講師は、群馬リハネットの山口・浅川に加え、島田千代子（県歯科衛生士会）、水野三千代（県栄養士会）、鹿島秀（健康運動指導士会県支部）、北原絹代（前橋市介護高齢福祉課）の各氏にご協力頂きました。

今後は、広域支援センターと市町村等でスケジュールや実施方法を検討し、10月以降に各圏域で初級・中級研修が実施される予定です。なお、10月1日（日）には、県庁の介護予防推進イベントで、介護予防サポーター初級研修を開催する予定です。

介護予防サポーター制度

初級：3時間の研修、対象：一般高齢者など概ね100名程度

概要 介護予防の必要性や方法を理解し、隣人に広められる

中級：3時間×3回の研修

対象：ボランティアとして活動する意欲のある方20～40名程度

概要 介護予防の全般的な知識を身につけ、介護予防事業のサポートができる

上級：ボランティアとして市町村の事業に参加 中級修了者

概要 さらに市町村の介護予防事業などに参加して経験を積み、地域のリーダーとして自主的活動ができる

介護予防サポーター養成準備研修に参加して

利根沼田地域リハビリテーション広域支援センターうちだ

高齢者の自立支援と介護予防重視を目標とする介護保険制度改正に伴い、「予防」に重点を置いた、介護予防サポーター育成事業の準備研修会に参加させて頂きました。今回の事業でまず行っていかなければならないことは、市町村の考えをしっかりと確認し、研修修了後どのような事業を行っていくのか、地域支援事業の活動にどのように参加して頂くのかなど、漠然と「介護予防」について学ぶだけではなく、地域で広め継続して行われるよう導いていく必要があります。ただ訓練を目的とするだけではなく、対象者が主体的に参加し、個性を尊重した活動が行われるように導くことにより、日々の日常生活・生活機能の向上に繋がりが、延いては地域全体で自立した生活を送ることができるのではないのでしょうか。そのためには官民連携・職種間連携を行い、地域全体を支える体制作り、地域リハビリテーション広域支援センターが役割を果せるような活動を目指したいと心新たに思いました。

今回の研修は、平成18年6月13日 群馬会館ホールにおいて、県高齢政策課、県地域リハビリテーション広域支援センターの共催により行われました。行政や各圏域の地域リハビリテーション広域支援センター、その他関係団体が参加し、介護予防サポーター養成研修で行うカリキュラムについてのご指導や事業を実施して行くうえでの助言を頂きました。印象に残った事として介護保険室井野室長から数多くの手術をこなしてきた医師の話で、「医師である私がなぜ治療ではなく、予防事業を行っているのか。それは、いくら手術をして患者さんを治しても、別の患者さんが次々と現れる。手術をして治すことよりも、事前に予防

し「防ぐ」ことが大事である。」とのお言葉を頂き、今回の事業に対する役割の必要性を改めて実感しました。

事業の内容として、初級は概ね3時間くらいのコースで、介護予防とは？ 介護予防はどうして必要なのか？ 介護予防はどう行えばよいのか？などを隣人に広められる程度の知識の習得。中級は地域でボランティアなど中心的な働き手として活躍できる方を対象に、概ね3時間の実技を交えた研修を3回行い、「認知症・運動・栄養・口腔」などの知識を学びます。カリキュラムについては市町村のニーズによって特徴のある研修にする為、多少違っていても構わないとのことでした。上級については市町村で行っている介護予防事業に自ら参加して頂き、経験をつんで地域で活躍できるレベルになって頂く。

このような事業を地域で広めて行くには、市町村・地域リハビリテーション広域支援センターが連携をしてシステムを作りあげ、事業として自立し、地域で「予防事業」が発展して行けるよう支援して行かなければと思います。そのためには今回のようなマンパワー研修を行い、指導を行う人材を育てる事も必要です。これから行っていかなければならないことは、まだまだ沢山ありますが、今回行われた準備研修会のお陰で県の方針や、先行してサポーター研修が行われた地区の報告から、高齢者の意欲やニーズを捉えることができました。今後も介護予防・地域支援だけではなく、情報交換や交流に至るまでのご指導を頂ければ幸いです。充実した研修に参加させて頂きありがとうございました。

全国地域リハビリテーション支援事業連絡協議会設立総会に出席して

全国地域リハビリテーション（以下リハ）支援事業連絡協議会の設立総会に出席するため、平成18年8月4日、午後から東京（ホテルJAL田町・東京）に出かけてきた。タイトルの通り、新しい組織である「全国地域リハ支援事業連絡協議会」を設立するために、開催された総会で、発起人（群馬地域リハ研究会で講演をお願いした浜村明德先生、米満弘之先生など）から提案された原案の通り、了承され、成立となった。

多くの方々にとっては、突然の話と思います。以下、その背景や内容について、私の理解する範囲で説明し、参加できなかった広域支援センターの皆様ならびに地域リハ関係者に理解いただきたいと思います。

そもそも設立に至る契機は昨年3月11日、東京で開催された第2回全国都道府県リハビリテーション支援センター長連絡協議会に遡る。群馬県も一昨年10月に加入し、この協議会に、始めて出席しました。当時、25カ所の都道府県の支援センターが加入しており、支援センターの立ち上がっていない県は県の関係者などが出席されていて、それらも含めて30都道府県の参加であった。群馬県では初めての出席であったが、この会はずでに曲がり角にさしかっていた。平成12年（群馬では平成16年）に開始された地域リハ支援体制整備推進事業において、先行の都道府県リハ支援センターや広域支援センターは、研修会、相談業務や現地指導で成果を上げてきたが、国の三位一体改革により、予算も付かず、整備推進事業が平成18年度以降はどうなるのか、全くの未知数であった。折しも、地域包括支援センターの話題が飛び交っていたが、広域支援センターとの関わりなど、そ

の詳細がまったく不明であった。そのような中で、今後の方向付けが定まらないまま、先行する一部の県支援センターなどが発起人になり、地域リハビリテーションの充実のための情報の交流、活動の連携を目的に、より拡大した全国地域リハビリテーション支援推進事業連絡協議会（仮称）が再提案され、一年後に設立総会を開催する方向で了承された。予定より半年近く遅れたが、そのような経緯の中で、ほぼ同様の名称で、設立に至ったのが今回の全国地域リハ支援事業連絡協議会である。すなわち、この協議会は全国都道府県リハビリテーション支援センター長連絡協議会を母体として、それを解散して（全国都道府県リハビリテーション支援センター長連絡協議会の会計から、寄付の名目で全額繰り入れ）新たに広域支援センターや各種リハ団体、協賛する個人を対象に設立されたものである。会則に謳われたその目的は「各都道府県のリハ支援体制の推進や地域リハの発展を図る」ことであり、今年度の事業計画では、主なものとして、地域リハ情報に関する機関誌の発行、研修会や教育研修の開催などが企画される予定である（まだ具体化されたものはない）。われわれとしては、いろいろと模索の中で活動しており、機関誌などで先行する都道府県の情報やノウハウを知ることができるし、協議会に問い合わせ、アドバイスをすることも可能かもしれない。さらに、広域支援センター、そして今年度から始まった介護予防事業等の拠点となる地域包括支援センター、それぞれの機能が十分発揮されるには、民間の関係諸団体と保健福祉の公的機関との有機的ネットワークの構築がますます重要で、この協議会にその役割を期待したいものである。

「元気県ぐんま21推進大会」介護予防推進イベント

「華麗に加齢フェスタ2006」 ～こころもカラダも頭もずっと元気に！～

平成18年10月1日（日）10:00～16:30、群馬県庁県民ホール、ビジターセンター、昭和庁舎、県民広場、群馬会館を会場に、介護予防等を体験し、楽しみながら知識を身につけていただくイベントが開催されます。県支援センター・群馬リハネットも出展の予定です。また、認知症サポーターと介護予防サポーター研修も開催されます。8月末頃にはチラシが配布され、県のホームページにも掲載されると思いますので、詳しくはそちらをご覧ください。

高次脳機能障害サポートネットワーク連絡会設置

平成18年4月から施行された障害者自立支援法の中に「高次脳機能障害者支援普及事業」が、県の事業としてうたわれています。この事業の一環として、7月20日に、こころの健康センターにおいて第1回群馬県高次脳機能障害サポートネットワーク連絡会が開催されました。群馬リハネット・県支援センターを代表して山口が参加してきましたので、報告します。

県内の医療・リハビリテーション、福祉、行政など高次脳機能障害に関わる団体・機関計14か所（下記）から参加がありました。県こころの相談センターの宮永所長がこの連絡会の代表です。第一回の連絡会では、会議の趣旨および経過が説明されたあと、それぞれの施設等がどう係わるのかなどの情報を提供し、意見を交わしました。障害者手帳に「高次脳機能障害」という新たなカテゴリーができた点について、これに係わった宮永所長より、身体障害や認知症（痴呆）のような精

神障害では漏れてしまった方々を認定するために作られたカテゴリーなので、基本的には「外す」のではなく「（漏れを）取りこむ」ための診断基準であり、認定はこの方向で進めるとの見解が示されました。医学的に厳しく認定する（除外する）ための基準ではなく、むしろこれまでの基準では救えなかった方々を認定するための（政治的）基準であるとの説明でした。

家族会の立上代表からは、高次脳機能障害者が昼間仕事をしながら過ごせるような作業所/デイサービスが無いので困っていることが一番の切実な問題だとの訴えがありました。群馬県障害者職業センターが、高次脳機能障害者の復職に取り組んでいますが、リハ専門職は不在でした。連絡会が立ち上がり、今後、高次脳機能障害を持つ方への支援ネットワーク作りが始まります。皆様のご協力を宜しくお願い致します。

前橋赤十字病院、県立精神医療センター、群馬大学医学部付属病院リハ部、群馬リハネット、県MSW協会、県OT協会、県PT協会、県立身体障害者リハセンター、県障害者職業センター、県精神障害者社会復帰協議会設立準備委員会、県社会福祉協議会、県保健予防課精神保健福祉室、県障害政策課、県こころの相談センター、家族会「ぐんま」

第5回

群馬県地域リハ研究会 来年1月20日に開催

日時 : 平成19年1月20日(土)
場所 : 群馬会館大ホール
参加費 : 無料
講師 : 理学療法士 中村崇 先生
(佐久平整形外科クリニック・
NPO 法人 佐久平総合リハビリテ-
ーションセンター)
もう1名講師を予定しておりますが、交渉中
です。
詳細は次号でお知らせいたします。

県支援センター事務局便り (H18.4~H18.7)

- 4.13 ニュースレター5号発送
- 5.9 介護予防サポーター実践編オリエンテーション
- 6.13 介護予防サポーター養成準備研修会

編集デスク

山口晴保 清水尚子
山上徹也 角田祐子

発行

群馬県地域リハビリテーション支援センター

連絡先

群馬県地域リハビリテーション支援センター事務局

群馬大学医学部保健学科理学療法専攻内

Tel/Fax : 027-220-8966

E-mail: tsunoday@health.gunma-u.ac.jp